

3 研究1 児童生徒のソーシャル・スキル尺度の作成

(1) 目的

- ソーシャル・スキルを測定するための観点を明らかにする。
- 明らかにした観点をを用いて、ソーシャル・スキル尺度を作成する。

作成する「ソーシャル・スキル尺度」は、実施するSSTプログラムを選ぶための「ものさし」として、また、プログラム実施後の評価として活用します。

(2) 対象とするソーシャル・スキルの概念

- 良好な人間関係をつくるためのスキル

様々な「ソーシャル・スキル」を、ある共通の「観点」でとらえようと考えました。その観点を、調査や分析によって定め、それをもとにソーシャル・スキル尺度を検討しました。

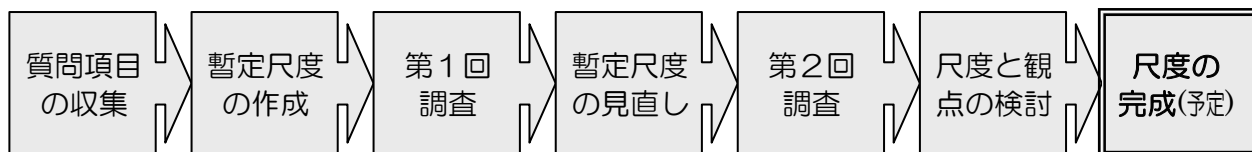
(3) 作成する尺度

- 【内 容】 ……児童生徒のソーシャル・スキル
- 【場 面】 ……アセスメント及び効果測定
- 【対 象】 ……小学4年生から高校3年生まで

「ソーシャル」は「社会的」と訳される場合が多いですが、人間関係をつくるためのスキルとして、「対人的」ととらえた方がフィットします。

作成する尺度は、プログラム実施前、子どもたちの実態を調査・把握するための「アセスメント」の場面と、プログラム実施後、変容をみるための「効果測定」の場面で利用します。

(4) 尺度の完成までの流れ



(5) 尺度の作成

① ソーシャル・スキルに関する質問紙・質問項目の収集

- ・ 本研究の研究協力委員が、関係文献等からソーシャル・スキルに関する質問紙を収集し、その中から、本研究のねらいに関連する質問項目を取捨選択する。

収集の時期 : 5月
収集質問紙 : 5質問紙
収集項目数 : 163項目
・ 163項目を2つのカテゴリーに分類する。

② 暫定尺度の作成

- ・ 選択した項目をもとに、ソーシャル・スキル暫定尺度を検討・作成する。
- ・ 児童生徒が、対人的な行動やその思考についての質問項目を自己評価することで、当該児童生徒のソーシャル・スキルを評価しようとするものである。
- ・ ソーシャル・スキルについての因子を「配慮」と「主張」と想定し、質問項目は、相手の状況を理解し気配りをする「配慮」と、自らのことを正しく伝えるための「主張」、それぞれ15項目ずつ、計30項目とする。

資料1 SST実施までの流れ

SST実施までの流れ (担任が学級で実施する場合)

ソーシャル・スキル
尺度を使う場面
を確認しよう

SST…ソーシャル・スキル・トレーニングの略

SSTを実施しよう！

ソーシャル・スキル尺度
の実施

対象とする子どもたちの実態を把握するために尺度を実施する。トレーニング実施後の変容の確認にも利用する。

実施するSSTプログラムの
検討

尺度の実施によって把握した子どもの実態にあったSSTを検討する。12のプログラムの中から選ぶ。

SST実施計画の立案

実施する日時、場所、資料、実施回数、定着（般化）のための工夫など、実施に必要な事項の計画を立てる。

トレーニングの実施

楽しい雰囲気、ねらいのスキルができるようになるまで繰り返しリハーサルを実施する。最後に肯定的な評価をする。

ソーシャル・スキル尺度
の実施（2回目）

トレーニング実施後に、尺度を再び実施する。1回目の結果と比較し、子どもたちの変容を確認する。

次のSST実施に向けて

2回目の尺度の結果から、新たに課題を設定する。2回目のSST実施に向け、前回の反省を生かした計画を立てる。

- ・質問に対する回答方法は、間隔尺度「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5段階評定とする。
- ・内容的妥当性すなわち、作成した項目が測定内容に合致しているかどうかの検討を複数回行う。

③暫定尺度による第1回調査の実施

質問項目 : 30項目(「配慮」15項目「主張」15項目)
 間隔尺度 5(あてはまる) 4(ややあてはまる) 3(どちらともいえない) 2(あまりあてはまらない) 1(あてはまらない)
 実施時期 : 10月中旬
 実施対象 : 中学生96名

④暫定尺度の見直し

- ・調査データをもとにヒストグラムの作成
- ・因子分解の結果をもとに調査項目の見直しを行う。
- ・質問の30項目から、不適切な3項目を削除、新たに1項目追加し、28項目とする。

⑤暫定尺度による第2回調査の実施

質問項目 : 28項目(「配慮」項目「主張」項目)
 間隔尺度 5(あてはまる) 4(ややあてはまる) 3(どちらともいえない) 2(あまりあてはまらない) 1(あてはまらない)
 実施時期 : 11月下旬
 実施対象 : 児童生徒 合計 311名
 ・小学生 99名(4・5・6年)
 ・中学生 105名(1・2・3年)
 ・高校生 107名(1・2・3年)

⑥尺度と観点の検討

<因子分析>

28項目の質問項目を用いて因子分析を行った。ソーシャル・スキルが、「配慮」と「主張」からなるとする仮説を確かめるために2因子を抽出した。第1因子は、「何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます」「クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます」などに対して負荷量が高く、「配慮」に関する因子とした。第2因子は、「自分だけ意見が違って、自分の意見を言います」「クラスの人たちの前で、自分の考えを言います」などで負荷量が高く、「主張」に関する因子とした。以上から仮説は確かめられたと考える。

表1 ソーシャル・スキルの因子分析の結果

変数（質問項目）	因子1 配 慮	因子2 主 張
・ 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	.748	-.168
・ クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	.764	-.114
・ みんなで決めたことに従います。	.708	-.180
・ 話をするときは、相手の気持ちを考えます。	.702	-.007
・ 迷惑をかけたときは、「ごめんなさい」と言います。	.674	-.095
・ 友だちとけんかしたときは、自分に悪いところがないか考えます。	.643	-.057
・ 友だちが悩みを話してきたときは、じっくり聞きます。	.630	-.002
・ 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	.574	.190
・ 友だちが元気のないときは、励まします。	.564	.151
・ 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。	.515	.150
・ 友だちが仲間に入りたそうにしているときは、誘ってあげます。	.506	.248
・ 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	.495	.021
・ 必要なときは、自分から友だちに頼みます	.463	.127
・ 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	.418	.131
・ クラスの人といつも仲良くしています。	.381	.202
・ 正しくないことを頼まれたときは、断ります。	.380	.239
・ 自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。	-.312	.795
・ クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	-.030	.747
・ グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	-.023	.727
・ 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	-.126	.715
・ 友だちに、自分の考えを言います。	.073	.652
・ 相手に聞こえる声で話します。	.205	.442
・ 必要なときは、自分から先生に頼みます。	.220	.355
・ わからないことがあるときは、先生に質問します。	.218	.350
・ わからないことがあるときは、友だちに質問します。	.322	.325
・ いやなことを頼まれたときは、断ります。	.168	.302
・ 断った方がよいと考えたときは、断ります。	.215	.275
固有値と因子寄与		
因子No.	No. 1	No. 2
固有値	8.892	2.377
因子寄与	7.551	6.035
		(プロマックス回転後)

表2 因子間相関

因子No.	No. 1	No. 2
因子No. 1	1.000	.562
因子No. 2	.562	1.000

表3 各因子について

因子	命名	おもな項目	内 容
第 1	配慮	「何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます」 「クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます」	相手の状況を理解し 気配りするスキル
第 2	主張	「自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います」 「クラスの人たちの前で、自分の考えを言います」	自らのことを正しく 伝えるためのスキル

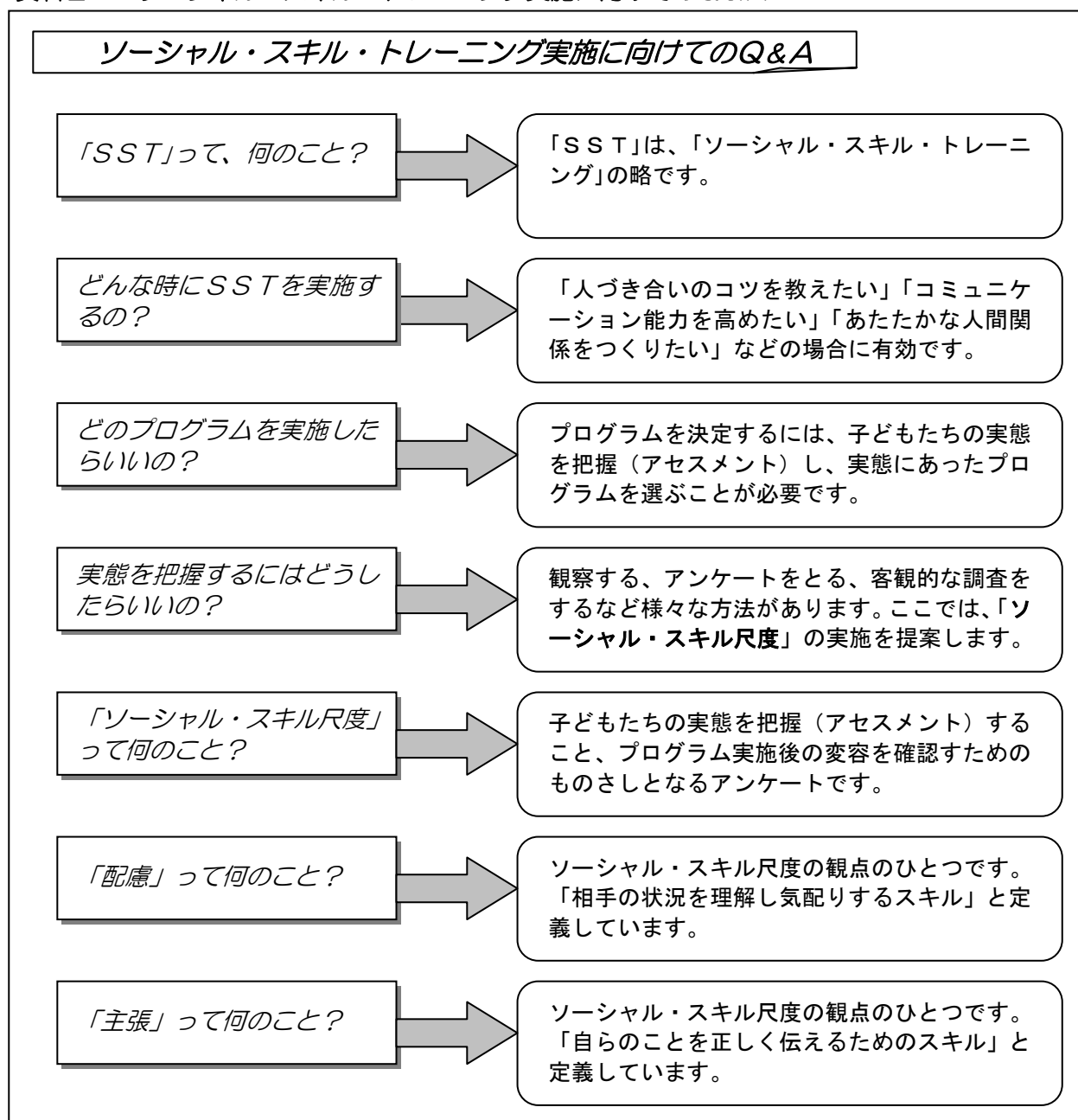
表4 記述統計と各下位尺度別のアルファ係数

変数（質問項目）	度数	平均値	全体平均
第1因子 配慮 ($\alpha = .8298$)			
・ 友だちが元気のないときは、励まします。	311	3.98	3.80
・ 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	311	3.96	
・ クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	309	3.94	
・ 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	310	3.86	
・ 話をするときは、相手の気持ちを考えます。	309	3.75	
・ 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	306	3.68	
・ 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	311	3.62	
・ 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。	311	3.61	
第2因子 主張 ($\alpha = .8186$)			
・ 相手に聞こえる声で話します。	311	4.04	3.38
・ 友だちに、自分の考えを言います。	311	3.71	
・ 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	311	3.37	
・ 必要なときは、自分から先生に頼みます。	311	3.50	
・ わからないことがあるときは、先生に質問します。	311	3.35	
・ グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	311	3.29	
・ 自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。	311	2.92	
・ クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	311	2.83	

表5 各下位尺度の合計と平均値（校種別）

	配 慮		主 張	
	合 計	平均値	合 計	平均値
高校生	29.03	3.63	26.28	3.29
中学生	29.88	3.74	26.47	3.31
小学生	33.14	4.14	28.34	3.54

資料2 ソーシャル・スキル・トレーニング実施に向けてのQ&A



⑦ソーシャル・スキル尺度（表4参照）

- a ソーシャル・スキル尺度は、「配慮」「主張」の2つの尺度によって構成される。
- b 尺度は、それぞれ8項目からなる。
- c 児童生徒が、自己評価することによってソーシャル・スキルを理解しようとする尺度である。
- d 評価は、各項目について、5（あてはまる）4（ややあてはまる）3（どちらともいえない）2（あまりあてはまらない）1（あてはまらない）の5段階で行う。
- e したがって、尺度の得点は、8点から40点までの範囲で与えられる。
ソーシャル・スキルの理解は、2尺度（2観点）の得点をもとに、2次元で行う。

表6 ソーシャル・スキル尺度 [ver. 1]

《 ソーシャル・スキル尺度 》		() 学校 () 年 () 組 氏名()
次の質問に答えてください。あてはまる数字に○をつけてください。正しい答え・まちがった答えなどはありませんので、正直に答えてください。 表の右側の白抜きの欄に数字を、下の欄に合計点・平均点を書き入れてください。		あてはまる・・・ ややあてはまる・・・ どちらともいえない・・・ あまりあてはまらない・・・ あてはまらない・・・
＜ 質 問 項 目 ＞		
No.	質問項目	1 配慮
1	友だちが元気のなときは、励まします。	
2	相手に聞こえる声で話します。	
3	何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	
4	友だちに、自分の考えを言います。	
5	クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	
6	人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	
7	友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	
8	必要なときは、自分から先生に頼みます。	
9	話をするときは、相手の気持ちを考えます。	
10	わからないことがあるときは、先生に質問します。	
11	話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	
12	グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	
13	友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	
14	自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。	
15	友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。	
16	クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	
		↓
		2 主張
合 計		
平 均		

(6) ソーシャル・スキル尺度とソーシャル・スキルについて

	配慮と主張のバランス	初～上級	ソーシャル・スキル
A	配慮 = 主張	●初級 ●上級	・あいさつ ・トラブルの解決策
B	配慮 > 主張	●初級 ●上級	・上手な聴き方 ・あたたかい言葉かけ ・仲間の誘い方 ・共感（気持ちをわかって働きかける方法）
C	配慮 < 主張	●初級 ●上級	・自己紹介 ・質問 ・仲間の入り方 ・やさしい頼み方 ・上手な断り方・自分を大切にする方法

